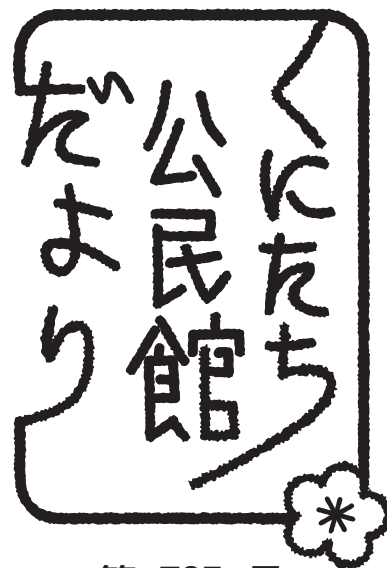


## 講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座が行われています。今年度も、引きつぎ新型コロナウイルス感染症の拡大に備えながらの実施となっておりますが、ぜひご参加ください。

昨年度の講座に参加された方々に感想を寄せていただきました。講座の雰囲気を味わっていただければと思います。



第 735 号

2021年 5月 5日

(令和 3年)

「くくにたち公民館だより」  
ホームページの QR コード ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

「くくにたち野鳥観察」に  
参加して  
武政 清

ようやく届いた2021年1月5日発行の「くくにたち公民館だより」に「くくにたち野鳥観察」の受講者募集(定員15名)の記事を見て、申込日に仕事を休んで公民館開館と同時に受付に立ちました。60歳を越えてもスズメ・ツバメ・カラス・ハトぐらいしか知らなかった私がなぜ野鳥に興味を持ったかといえば、40歳代のころ山歩きや尾根道などでよく澄んだツツピィ・ツツピィと鳴く声を耳にして、どのような鳥なのか見たいと思っただけです。数年前にたまたま思いついて「くくにたち野鳥観察」の城山・ハケでの催しに飛び入りで参加したところ、とても面白い体験になりました。その後、3回の講座全部を是非とも受講したいと思

っていたところ、念願叶って一年前の講座に参加できました。この時、多くの知らないことや観察の楽しさを教わったので、次の開催を首を長くして待っていたのです。講座は3回シリーズ。木々が葉を落とし、鳥が見えやすくなる冬に開催されます。1月17日の1回目は郷土文化館での座学、1月31日の2回目は城山とハケでの観察、2月14日の3回目は多摩川の左岸の河原(石田大橋の北を北上)での観察の実践で、それぞれ午前2時間半程度で開催されました。講師は佐伯元行先生と中島徹也先生です。

1回目では、国立市で主に見られる野鳥35種類の簡単な解説付き写真集や、過去9年間にハケ・城山・多摩川付近で見られた野鳥の種類と数などが記された資料が配布され、前記講師が内容を説明されました。

2回目からはよいよ観察の実践。開始直後の路上では極めて珍しい「シロハラ」が、その傍の畑では「ジョウビタキ」が早速出現し、このあとどのような野鳥が現れるか期待が一気に高まりました。この日は22種類を観察できました。3回目では、珍しい「ノスリ」や参加者に大人気の「カワセミ」も現れ、この日は24種類を観察しました。



多摩川の「緑川排水桶管」付近でカワセミを観察中

佐伯先生の本業は蝶の観察・研究だそうで、『蝶の飛翔』など蝶の美しい写真集の著者でもあります(本当の本業は「国立あおいたり保育園」の園長先生)。野鳥観察は趣味だと言われましたが、もはや趣味の領域ではありません。

## 今月の公民館 (5月~6月上旬)

- 13日(木)夜~ ブッククラブ  
古川日出夫『ベルカ、吠えないのか?』
- 16日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう  
2000枚の傘袋で遊ぼう
- 22日(土)昼~ 身体表現ワークショップ  
「からだであそぼう」
- 23日(日)昼 CINEVOX『グレン・ミラー物語』
- 28日(金)昼~ 古典への招待ー『万葉集』を読むー
- 29日(土)朝 多文化共生事業  
「ブラック・ライフズ・マター」
- 6月6日(日)昼★ 図書室のつどい  
「おべんとうの時間がきらいだった」

★はオンライン受講可能な講座です。

今後の動向により、開催の延期や中止など変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問い合わせください。

公民館 ☎ (572) 5141



公民館の状況▶

さいいます。私が一人で歩くと半分くらいしか見つかからないでしょう。中島先生は、双眼鏡では見えにくい鳥を高倍率の単眼鏡で参加者に紹介されていました。

くにたち野鳥観察会の方数名も毎回講座のお手伝いをされており、講師から離れた場所の参加者に、現れた野鳥について丁寧に説明しておられました。

この講座では、野鳥に関する知識と野鳥発見能力を大いに向上させることができました。さらに、国立市の緑と水の豊かさも味わえて、とても充実した観察会になりました。講師の先生方とお手伝いいただいた野鳥観察会の皆様にとっても感謝しております。今後の野鳥観察講座の企画が楽しみです。(令和3年1月17、31日、2月14日実施)

〈人権講座〉どうして、私たちは見た目で判断してしまうのか、綺麗々、かっこいいの向き合い方

佐藤 遥

「どうして私たちは見た目で判断してしまうのか」疑問であり、嘆きにも聞こえるこのタイトルが冠された講座。3名の講師各々の専門分野を軸に、ルッキズム(外見差別)の定義にはじまり、ルツ

キズムはたして差別なのかという吟味、そしてそれと向き合うためにはどうしたらいいのか、という3段階で手を引かれるように知識や考え方を学ぶことができた。

まずは長田さんの講座。序盤の「冗談のつもりの一語が相手の数十年を曇らせる。」という一言に何度も頷いた。また、ルッキズムと見た目(メイクや服装など)を

楽しむことは別物であるということ、加えて「生きていくだけで美しい」という類の文言に対し「そもそも別に美しくある必要はないか?」と思っていたが、それは自分が持つ美しさの範囲が狭いからだと気付かされたことが印象に残っている。森山さんの講座では、どんな場合でも見る側・見られる側が存在しているのに、その相性の不一致が見られる側の責任にされる不均衡さの存在や、そうやって個人の問題にしようとする仕組みが差別を生み出しているのではという話にはっとさせられた。最後は西倉さんの講座で、解消法には個人・集団・法というレベルのグラデーションがあるということに興味深かった。

私には自分の見た目を受け入れられず外に出られない日や、鏡を見て涙が止まらない日があった。そしてSNSを見ていると実は同

じエピソードを持つ人が多くいて、つまりは個人レベルの問題ではなく、これは社会の問題なのだなど実感している。(森山さんの講座でもあったように差別とは社会的カテゴリーの問題なのでそれはそうなのだが。)いまだにテレビでは見た目のことを笑いにしているし、街には見た目のコンプレックスを煽る広告が溢れている。周りにもまだまだ見た目のことを指摘する人はいる。そんな状況に出く

わすたびに辛くなるけれど、自分ができることは今のところセルフラブとセルフエデュケーションなのだとわかった。たくさんの方に触れて美しさの視点を増やし、ルツキズムについて勉強を重ね女性差別にも通ずるその構造への理解を深め、できる範囲で対処しつつ社会から押し付けられる価値観に翻弄されずに日々過ごせるようになりたい。

また、わたしは札幌からオンラインで参加したが、もしもオンライン

で参加したら



みんなで勉強中!!

インでの開催がなかったらこの講座の存在を知らなかっただろう。そして遠方からも参加可能ということもあってか参加者も多く、同じルッキズムについて学ぼうとしている人がたくさんいるということに勇気づけられた。最後の講座ではブレイクアウトセッション(オンライン上の意見交換)で他の参加者と意見交換もでき、会場での受講と遜色ない経験ができたと思う。公民館という、地域に住む人々に開かれた場所が、人権に関する講座を主催するということが希望を感じるとともに、講座を運営してくださった職員さんへの感謝の気持ちを込めて、この講座のことを身近な人に共有していきたい。

(令和3年1月24日、2月13日、27日実施)

〈一橋大学連携講座〉「4人の写真家との対話―光の波紋が残すもの―」を受講して

岡崎 裕美

私は写真に関係する仕事をしていきます。普段若い人たちと写真について考える場を持つたり、写真家さんと作品について話をしたりすることが多く、いつも写真や写真をめぐる人々から教えられることばかりで、新しい発見に満ち

た魅力的な媒体だと実感しています。今回の井上間(ま)文(ま)先生と一橋大学の院生の方たちによる双方向型講座は、それぞれの回ごとに個性的な写真家本人からお話が聞けるとのことで、絶対に参加したいという強い気持ちで受講しました。

第1回目、川崎佑さんの講座のテーマは「写真家が書くこと」。川崎さんの話の中で、必ず写真と言葉が呼応する必要はなく、むしろ謎のまま、というようなことをおっしゃったのが非常に印象的でした。言葉は写真に比べてダイレクトに伝わるので、それ自体がメッセージだと思いがちです。ちょうどその頃、私は写真家を目指す若者たちと、写真集と言葉について話し合うことが多く、それについて考え込むこともしばしばでした。でも、写真家の言葉はヒントをくれることもあれば、謎を深めたりすることもあり、答えではないということ、私の中で腑に落とすことができました。

第2回目に来られた藤岡亜弥さんは、個人的に私がとても好きな写真作家です。改めてこれまでの作品についてご本人からお話しを聞き、こうあらねばならないということから離れて(例えば広島を撮影する際に、いわゆる「ヒロシマ」でなくてはならないというこ

とから離れて、自分のやり方で目の前のことをカメラを通して切り取る、そのスタンスに共感しました。言葉にできない、説明できないようなものを捉えて目の前に見せてくれる写真群から、私たちが受け取るもの、それはやはり言葉にできない何かなのだと思いますが、それを成しえる写真家自身、眼前への向き合い方の力強さを感じました。

第3回目の仲宗根香織さんの回では、事前に「時間」を感じる写真を持参してくださいと言われており、写真を探しながら、講座が始まる前からすでに「写真と時間って？」という問いがずっと頭にありました。参加者同士ペアを組み、お互いの写真を見せて話し合うこともとても新鮮で、持って来られた初めて見る写真1枚を拝見して、写っているものだけではなく写っていること全体について考える機会となりました。過ぎ去った時間、これからやってくる時の流れ、そういったものを写真の中のちよっとしたひっかかりのようなものから感じとることは、直接的な記号を探すのではなく、なんだか気になる、気にかかるとのこと、写真をつくり見ることにつながると思いました。

第4回目では、写真家であり画

家である根間智子さんのお話を伺いました。私自身、長い間「写真表現」について関わってきましたが、根間さんのメディアを超えた表現に強い関心を覚え、写真作品を動画や、編集やデザインの凝った写真集を拝見して、否応なく惹かれていた自分がいきました。「写真らしさ、写真ならではの真らさ」とに自分が拘っていたことを認識し、そこから解放されてもいいんだという気持ちにさせられました。見ることは独立した感覚ではなくて、五感につながっているということをおっしゃっていたように記憶しています。写真はひとつの方法ではあるけれど、強すぎる拘りは、自分が鑑賞する時でも表現する時でも、可能性を制限してしまう危うさがあると感じます。

今回の講座は充実した贅沢な時間で、自分のこれまでを振り返るきっかけにもなりました。全4回はあつという間に終わってしまいました。またこのような濃い講座を開いていただきたいと思えます。ありがとうございました。  
(令和2年11月28日、12月20日、令和3年1月17日、2月20日実施)



〔平和講座〕身近な戦争  
多摩地域で起きたこと  
Honu

この講座に参加したことで、戦争に対する認識が変わりました。

私が日露戦争・太平洋戦争において実際に何が起っていたのかを知りたいと思ったのは約5年前です。大学受験では日本史を選択しており歴史好きでしたが、近現代史は高校でも予備校でも端折られていた印象が強いです。従って戦争名とちよっとした内容のみの暗記状態。史実を知りませんでした。

きっかけは『永遠の0』。特攻美化とも言われる作品ですが、私は美化されているとは思いません。こんなにも恐ろしい時代があったと気付かせてくれた作品です。人それぞれ受け止め方は違うでしょう。しかし戦争を知らない私にとって、70数年前に何があったのかを追いかけるきっかけになりました。

それからは古い時代の映画を観たり本を読んだり体験者の証言を聞いたりして、次第に実態が掴めてきました。真珠湾には二度行っています。アリゾナ、ミズーリの戦艦や、ボーフィン潜水艦には実際に触れました。それぞれの艦に

日本と関わる歴史があります。パシフィックにある国立太平洋記念基地には日本人名もありましたが、苦しい状況下で命を落とした全ての方の冥福を祈らずにはいられませんでした。

沖繩や鹿児島ではなくさんの戦跡を巡りました。広島と長崎でも被爆建物など多くを見ました。東京大空襲の被害が大きかった下町エリアには今でも足を運んでいます。

私は生まれも育ちも多摩地域です。「自分の住む周辺はどうだったのか」と考えたのは最近です。軍事的施設が多く存在していた茨城県には何度も足を運んでいましたが、多摩地区についても知りたくなりました。



〈第1回〉多摩地域の市民の戦争について

り、恐怖と不気味さがありました。何より武蔵村山に「東京陸軍少年飛行兵学校」があったということは衝撃的でした。卒業生達が知覧等の基地から特攻に出たという事実。鹿児島には何度も行っており、知覧も巡っていました。こんなに身近から死への道が繋がっていたなんて。

もっと知りたくて武蔵村山の歴史民族資料館分室にも行きました。そこには戦争の遺物が展示されています。長圓寺、東航通り、東航正門跡、東京陸軍少年飛行兵学校跡地、禅昌寺(少飛の塔)、六道山公園の三ツ木地区防空壕跡を巡り、多摩地区で起こった事がわかり始めてきました。東村山にはB29が墜落した跡地に観音様が建てられており、東久留米のお寺にも爆弾が落ちた場所に碑が建てられています。他にもたくさんあるだろう、と調べていたらちょうどこの講座が開かれて参加致しました。少年飛行兵については特に関心があったので、資料や解説によって理解が深まりました。

まず調布の掩体壕3箇所を見つけてきました。鹿島灘にあった桜花の掩体壕と同じようなものがこんな近場にも残っているとは衝撃でした。東大和の旧日立航空機変電所は機銃掃射の跡が無数に残っており

今後も身近な戦跡、日本各地海外を巡ります。戦争を語る方々がいなくなっていくからこそ、自分が若い世代に語れるようになりたいと思います。  
(令和3年3月11日、18日実施)



監督 アンソニー・マン  
 出演 ジェームズ・スチュアート、ジューン・アリスン、  
 ルイ・アームストロングほか

自らの楽団を率いて「ムーンライト・セレナーデ」「真珠の首飾り」「茶色の小瓶」など、数々のスウィング・ジャズの名曲を世に送り出した、伝説のトロンボーン奏者グレン・ミラーの生涯、妻との夫婦愛を中心に描く音楽映画の傑作。



グレン・ミラーを演じるジェームズ・スチュアートと妻ヘレンを演じるジューン・アリスンの息の合った名演が、深く、爽やかな感動を呼ぶ。

とき 5月23日(日) 昼2時～(開場昼1時)  
 ところ 公民館 地下ホール  
 定員 35名(申込先着順)  
 申込 5月12日(水) 朝9時～  
 \*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込み下さい。  
 \*新型コロナウイルス感染予防のため、途中で10分程度、換気のため休憩を設けます。ご了承下さい。

〈青年講座〉 **初心者 山部**  
 ～くにたちから山をはじめよう!～

山に登ってみたいけれど難しそう……、一緒に行ける山仲間がほしい……。「初心者山部」は、そんな若者のための講座です。1回目の座学では、登山に必要な装備や心得をレクチャーします。2回目は、座学の時にみんなで決めた近郊の山に登ります。汗をかきながら登った山頂ではきっと、体験したことのない爽快感が待っています。さあ一緒に、くにたちから山をはじめましょう!

1回目 6月13日(日)  
 昼2時～4時 座学  
 2回目 6月20日(日)  
 朝9時～5時頃 登山  
 講師 林 雄三(青年室スタッフ)  
 ところ 公民館 3階講座室  
 対象 高校生～30歳代くらいの方  
 定員 10名(申込先着順)  
 申込 5月18日(火) 朝9時～



「目指せ、山頂!」

〈図書室のつどい〉  
**おべんとうの時間が  
 きらいだった**

オンライン  
 受講可能



講師 阿部 直美(フリーライター)

航空会社機内誌の人気連載「おべんとうの時間」。阿部さんは、夫と娘とともに取材先を巡り、たくさんの人達のおべんとうにまつわる心温まる記事を届けてきました。そんな阿部さんは子どもの頃、色味がなく、何より息苦しかった家の食卓を思い起こす自分のおべんとうが嫌いでした。

物心ついた頃から家族との葛藤を抱え、いつしか「家族」こそが阿部さんのテーマとなりました。おべんとうの先に様々な暮らしを見つめてきた阿部さんに、ご自身が「家族」に対して考えてきたことを中心にお話いただきます。

〈阿部さんの本〉

表題作(岩波書店)、阿部了との共著で『おべんとうの時間』(1～4巻、木楽舎)・『手仕事のはなし』(河出書房新社)ほか



とき 6月6日(日) 昼2時～4時  
 ところ 公民館 地下ホール  
 定員 会場受講:40名、オンライン受講:30名  
 ※いずれも申込先着順  
 申込 5月14日(金) 朝9時～6月1日(火) 夕5時  
 ※オンライン受講を申し込まれた方には、前日までに参加方法の詳細をメールいたします。

〈古典への招待〉  
**『万葉集』を読む**

講師 水島 英己(詩人)

今年度も引き続き『万葉集』を読みます。四千五百余首の「四割以上は相聞贈答の歌々で、その大部分は男女間の恋のやりとり」(品田悦一『万葉集の発明』)と言われる、その「恋のやりとり」の歌々を今回は鑑賞します。様々な「やりとり」からの「距離」や「自粛」を体験している現在、万葉から見えてくるものは何か。みなさんと一緒に味返し、考えていきます。

〈使用するテキスト〉  
 プリントを配布します。(参考として、齋藤茂吉「万葉秀歌」上下(岩波新書)、中西進『万葉の秀歌』(ちくま学芸文庫)など。)

とき 5月28日、6月4日、11日、18日、25日  
 (全5回) いずれも金曜日、昼2時～4時  
 ところ 公民館 3階講座室  
 定員 15名(申込先着順)  
 申込 5月13日(木) 朝9時～

## 「小学生初心者水泳教室」参加者募集

と き 6月11日(金)・16日(水)・18日(金)・25日(金)・30日(水)・7月2日(金)・7日(水)・9日(金) 計8回 午後4時から6時まで

と ころ く に たち 市 民 総 合 体 育 館 室 内 プール

費 用 無 料

指 導 員 国 立 市 水 泳 連 盟

対 象 ・ 市 内 在 住 の 小 学 1 ・ 2 ・ 3 年 生

定 員 計 30 名 (泳ぎの苦手なお子さんが対象です)

※応募者多数の場合は抽選。



申 込 5月24日(月)(必着)までに、  
●く に たち 市 民 総 合 体 育 館 ホーム ページ (<https://kuzaidan.or.jp/gym/>) (ホームページは16時まで)  
または ●は が き に ①住 所 ②氏 名 ③ふ り が な ④電 話 番 号 ⑤学 校 ⑥学 年 を 明 記 の 上、〒186-0003 国 立 市 富 士 見 台 2-48-1 く に たち 市 民 総 合 体 育 館 「小 学 生 初 心 者 水 泳 教 室」 係 ま で お 申 し 込 み く だ さ い。

※申し込み1件につき1名。複数名の記載、記載漏れの場合は無効とします。

※締切後に抽選を行い、締切後1週間をめぐりに応募者全員に連絡します。

問 合 先 く に たち 市 民 総 合 体 育 館 ☎ (573) 4 1 1 1

主 催 (公財) く に たち 文 化 ・ ス ポー ツ 振 興 財 団

共 催 国 立 市 教 育 委 員 会 生 涯 学 習 課

4月13日(火)第33期第6回定例会を開催。委員14名、館長、職員1名出席。傍聴人9名。  
前回は修正を確認した。  
報告事項  
○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会に関する報告があった。  
○館長より4月1日付人事異動の報告があった。館長の異動はない。  
職員より令和3年度事務分掌及び担当事業一覧の説明があった。  
委員研修  
長澤委員より「社会教育委員制度と市民主体の社会教育づくり」と題する講義があり、社会教育委員の役割等についての質疑応答があった。

公民館運営審議会報告  
○社会教育委員の推薦  
次期社会教育委員の公運審からの推薦者は矢野勝巳氏に決定した。  
○館長からの諮問予定  
今後の定例会において諮問する意向が伝えられた。また、近年の答申に対する公民館の取り組み状況の説明も次回、館長より行われることになった。  
○第33期公運審の議題予定  
江頭副委員長より今後の公運審の議題予定案並びに懸案事項の説明があった。委員の意見も踏まえ、議題の時期は一部修正することとした。  
次回5月11日(火)夜7時15分から地下ホール。感染予防の上、傍聴歓迎。  
(矢野)

〈多文化共生事業〉

## ブラック・ライブズ・マター —どんな命も大切—



講 師 マンス・トンブソン (写真家)

昨年、アメリカで黒人男性が白人の警察官に首を圧迫されて死亡した事件を受け、世界中に広がったブラック・ライブズ・マターの運動。

今回は、同じアメリカ人として生まれ育ったのに肌の色で差別を受けたマンスさんの実感を語っていただきます。

日本に長く住むマンスさんによると、多くの日本人はこのように問題には無関心、また日本では黒人差別は存在しないから関係ない、などという言葉が少なくないそうです。世界的に起こっている問題に関心を持ち、自分に何ができるかを考えることはとても大切なことではないでしょうか。

今回は、ご自身のこれまでの体験やご両親のお話、アメリカの差別の背景などについてお話いただきます。

と き 5月29日(土)朝10時~12時

と ころ 公 民 館 地 下 ホール 定 員 40 名 (申 込 先 着 順)

申 込 5月7日(金)朝9時~

〈く に たち ブ ッ ク ク ラ ブ 人 生、野 を 越 え 山 越 え て〉

## 古川日出男『ベルカ、吠えないのか?』

(文春文庫)

講 師 紅野 謙 介 (日本大学・日本近代文学)

と き 5月13日(木)夜7時半~9時半

と ころ 公 民 館 地 下 ホール 定 員 30 名

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

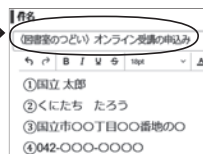
### ~講座の申込先はこちらまで~

会場受講：公民館☎(572)5141

オンライン受講：sec\_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

※申込みメールには以下の項目を明記してください。

件名：申込み希望の講座名→  
本文：①氏名②ふりがな  
③住所④電話番号



当日、参加者側の環境による接続や音声の不備についての問合せには対応できませんのでご了承ください。

### 公民館へご来館の際のお願い

- ・自宅での検温、マスクの着用、手指の消毒、会場の換気にご協力ください。
- ・サークル・団体の代表者等は、参加者氏名と緊急連絡先を必ず把握し、保健所等から依頼があった場合は、参加者名簿を提示してください。

# ひろば



## 人物画の会 春展のお知らせ

この難しい時期の中でも会員は描きつづけました。人物画を中心に風景・静物合計約80点を展示します。どうぞおいでください。  
 日時 5月17日(月)〜22日(土)  
 初日は昼1時から  
 場所 芸術小ホール2階ギャラリー  
 連絡先 榎本(571) 0385

## ターゲットバードゴルフ会員募集

谷保第三公園で開いた傘を逆に立て羽根のついたボールをクラブで打って入れるゴルフを目にしませんか?誰でも楽しめるゴルフです。まずは体験、大歓迎です!  
 日時 毎週(休)朝9時・(金)昼12時  
 場所 谷保第三公園  
 連絡先 嘉納(577) 1283

## くにたち国際友好会 WING

5月の国際理解講座はルーマニアについて一橋大学留学生のアンダ・ウングラさんに発表していただきます。オンラインで行いますので事前に申し込みしてください。  
 日時 5月26日(水) 夜7時〜9時  
 場所 Zoomで行います  
 連絡先 和田(090) 2110

## 第I種会計年度任用職員 【公民館事業事務員】募集

**勤務期間** 令和3年7月1日(木)~令和4年3月31日(木)  
**勤務形態** 土・日曜日、夜間、平日含め週5日、1日6時間程度の勤務  
**勤務内容** 公民館事業(しょうがいしゃ青年教室等)の企画・運営、施設の貸出・図書室窓口業務等  
**資格** 社会教育主事、司書、学芸員の資格または教員免許  
**報酬** 時給1,670円(交通費支給、社会保険加入、期末手当支給)  
**面接日** 令和3年6月11日(金) 午前  
**選考方法** 書類選考・面接 募集人員 若干名  
**申込方法** 履歴書(写真添付)、小論文「私が考えるこれからの公民館事業」(様式自由、800字以内)に資格証明書の写しを添えて令和3年6月3日(木)必着で郵送ください。  
**送付先** 〒186-0004 国立市中1丁目15-1 国立市公民館 職員募集担当宛  
**問合せ先** 公民館 ☎(572) 5141

## ー7月(ロビー)8月分) 会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	5月1日(土)~27日(木)
公用使用の貼り出し	5月11日(火)頃
予約の重なるのあった団体の掲示開始日	5月29日(土) 重なり状況▶
会場調整会	6月5日(土)朝10時~

会場調整会へは、1団体1名の方が、手洗い・マスク着用等の感染症対策のうえ、第1希望がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方がご参加ください。

公民館 ☎(572) 5141

## 人権学習会「アイヌ民族に対する差別を許さないために」

テレビがきっかけと思われる差別落書き事件が国立市で発生。首都圏アイヌの宇佐照代さんと島田あけみさんのお話を伺い考えます。  
 日時 5月30日(日) 夜6時〜8時  
 場所 芸術小ホール  
 連絡先 田島(576) 4015

## 「サークル訪問355」 「文月の会(朗読サークル)」

「文月の会」は、朗読の会の受講者の方たちが17年前に立ち上げた自主グループである。現在5名のメンバーで楽しく活動を続けている。

まずは、朗読の前に、「アエイウエオアオ」と発声発音の練習。それから、早口言葉を含む短文を読み上げる。皆さんスラスラ読んで気持ちよさそう。

「一緒させていたいただいた私は、思うように口が回らない。つかえながら、なんとか読み終えた。

いよいよ朗読の時間、今回の作品は、童話「ソメコとオニ」(斎藤隆介作)。一人ひとりの読み方、声の質、発声の仕方的印象が全く違って聞こえるから不思議だ。その後、役を振り分けて、ソメコ、オニなど登場人物になりきって情感たつぷりに読んでいく。

作品は童話、エッセイ、古典など幅広く挑戦しているようだ。1年の成果を、毎年秋に開催される市民文化祭で発表している。そこで聴いた朗読に感動してメンバーになった方も。

昨年はコロナ禍で発表できず、今年こそはと願っている。

「何度も読むことで、作品をより深く理解できるようになった」「音楽など興味範囲が広がって感動することも増えた」

「同じ作品が読み手によって変わる。読み合う稽古で各自の表現力が深まっていく」

「言葉の持つ力を再認識し、大切にしようになった」

「喉が鍛えられたせいか、風邪を引かなくなった」等々、メンバーの方たちの声である。

なるほど、朗読は心身に良い影響を与えているに違いない。その証拠に、皆さん声も若々しく、マスクを着けていても、きちんとはつきり伝える力が身についていらつしやる。

朗読の世界は広く奥深い! 興味のある方は、ぜひ聴きにいまして下さい。

日時 毎月第1・3水曜日  
 昼1時半〜3時半

場所 公民館

連絡先 佐伯(090) 4163  
 nm-f00-75v@tempo.ocn.ne.jp

〈文・写真 高木裕子〉



緊張感も心地良く